

地域密着型サービス評価の自己評価票(ユニット名：東)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input type="checkbox"/>	臨機応変に見直しができるような体制を整えていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input type="checkbox"/>	定期的に理念を掘り下げ、職員とともに見直し、改善していける体制を整えていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<input type="checkbox"/>	さらなる理解を求めるために、どのような方法で理解してもらえるか市の担当者へ相談したり、運営推進会議の議題にあげる予定である。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<input type="checkbox"/>	隣近所の人々が気軽に立ち寄ってもらえる環境づくりに取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/>	地域の人々と施設とが双方向に行き来できる関係づくりを検討中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社協主催の研修会などに補助的に協力しているも、施設主催の勉強会までには至っていない。	○	職員の経験、実績、力を見極めて、開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行うことにより日常の業務を再確認し、改善事項をまとめ改善に向けて努力をしている。	○	家族に改善し終えたものについての報告を行うようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状等の報告のみで、利用者、家族からの意見を質やサービス向上に活かすまで至っていない。	○	会議の開催回数を重ねることにより、意見などを話しやすい環境をつくりサービスの向上に役立てる取り組みをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	解決困難事例など、施設だけで抱え込まず、市担当者へ相談し、助言をいただいている。	○	市担当者と行き来する機会をつくる努力をしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の協力を得て、施設に出張していただき、職員全員が参加し勉強会を開催し、必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。	○	地域福祉権利擁護事業を利用されている利用者もいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で声をかけ合いスタッフが虐待の当事者にならないよう努めているも、高齢者虐待防止関連法を学ぶところまでには至っていない。	○	勉強会を計画し、施設内だけでなく、虐待の防止が徹底できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、一度目を通していただいてから、再び利用料金や医療連携体制などについて詳しく解りやすく説明し、理解、同意を得るようにしている。	○ 利用者の状態変化による退所理由など、もう少し詳しく説明できる様検討中。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話や表情から不満等を察知したり、家族に協力を得て不満等を聞いていただいている。また、市職員と連携を図り、利用者の意見を聞いてもらっている。	○ 利用者の不満・意見・苦情を解決するため、必要に応じてミーティングを行い早期解決に向けた取り組みを行っていききたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や広報誌を利用し利用者の状況を伝えている。また、金銭の出納は定期的、あるいは必要に応じて報告している。	○ 報告はしているも、遠方の方、疎遠になっている方に対して、もう少し本人の状態が解るような報告が出来るよう支援していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は一声かけて、苦情・意見をもらえるような雰囲気を作っている。運営推進会議、市町村の相談窓口を紹介し、利用してもらえるよう働きかけている。	○ 苦情解決担当者や、市町村担当窓口、第三者機関を利用してもらっ様、その都度家族会などで話していくようにする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティング時に時間を設け職員の意見や提案を聞くようにしている。	○ 今まで以上に運営者、管理者は職員個別に意見を聞くよう努めていき、意見の早期対応・解決に取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者のニーズや生活時間に合わせたローテーションを組んでいる。	○ その日の利用者の状況やイベントなどに合わせ、東西のユニットの連携をさらに強化していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には施設側で管理し、希望があれば検討し、本人に金銭管理をしてもらっている。	○ 職員が離職する際、しっかりと離職理由を聴き、施設側に問題があった場合には改善していくようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他事業所での勉強会などへは、正職員、パートに関係なく参加している。</p> <p>○</p>	<p>なるべく多くの職員が法人内外の研修へ参加できるよう支援していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に他のグループホームへ訪問、見学し、意見交換などを行い、日常業務への課題の見直し、質の向上をはかっている。</p> <p>○</p>	<p>継続的に訪問したグループホームとの連携を図っていけるよう検討していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室にはTV、寝具類を配置し、気分転換が出来るよう配慮している。職員同士の人間関係などを配慮した勤務作りに努めている。</p> <p>○</p>	<p>勤務時間中であっても気分転換に喫煙が出来る環境づくりをしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の実績や能力に応じて、向上心を持って働けるよう仕事を分担している。</p> <p>○</p>	<p>職員の資格取得の支援を行っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接で本人、家族の両面から生活状態を把握するよう努めている。また、家族の不安や困っていることの核心についても把握するよう努めている。</p> <p>○</p>	<p>体験入所の制度もあるので、空き部屋がある時にはこれらを活用し、利用者に不安のない入居を目指したい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの経緯についてゆっくり話を聴くようにしている。それを、次の段階の相談につなげている。</p> <p>○</p>	<p>出来るだけ多くの家族と会い、今まで以上にお話を伺うようにし、理解を深めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人や家族の思い、状況等を確認し、施設として改善に向けた支援の提案や相談を行いながら必要なサービスを提供できるように努めている。	○	入所希望で満床の時など、他の事業所の情報を確認し提供する。入所できるまでの間、介護保険で利用できるほかのサービスがある事などを解りやすく説明している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐにサービスを利用される場合が多いため、家族や関係者には利用者が施設に馴染めるまで頻繁に面会に来て頂くよう働きかけている。	○	地域密着型サービスの特徴を活かした本格的な利用に至っていただけるような支援に取り組みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	敬意を持って利用者に接し、会話や言動を通じて共感・理解に努めている。また、昔からの行動・習わし事・裁縫・畑仕事など利用者から学ぶ場面が多い。常に感謝の気持ちを持って接している。	○	利用者が活躍していた時代の食文化・生活文化までをスタッフが学ぶことによって、利用者が活躍できる場面作りをさらに増やしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院の状況は電話で伝え、日々の様子は広報誌で個別に説明している。面会時にも家族と会話する時間をもち、相互支援を図っている。面会時には利用者に対する思いを伺い、どのような介護を望まれているのかを聴くように心がけている。	○	家族会などを通じてケアに対する家族の重要性を理解していただき、さらに家族との関係を強化していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加を促している。また日頃の状態を報告、相談するなど、手紙や電話を本人に利用してもらうことを支援し、関係が途切れないよう心がけている。	○	外泊・外出の支援の方法を検討し実現していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物先や外食先、本人が恒例として来た行事や趣味などを本人から、または家族から情報をもらい、継続していけるよう支援している。	○	さらに馴染みの場所への外出等を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席の座り方などで世話をしたり、されたりと利用者同士が助け合える配置を心がけている。また個別に話を聴き、のんびりとした空間の中で困ったことはないかを聞いたりしている。	○	作業や役割分担をもう一度見直し、作業などを通し、利用者の個性を活かしていただけるようスタッフが調整役となっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型になり地元の施設に移られた方に、大勢で会いに出かけたり、移動して来られた利用者には元の施設にスタッフと一緒に遊びに行き元気になった姿を見てもらうなどしている。	○	サービスの利用が終了した後も培われた関係性を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から願いを聞き逃さないようにし、できる限り家族の協力を得たり、スタッフ間で話し合い実現できるように努めている。	○	個々に対話する時間を設けさらに掘り下げた希望を聞いていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴を会話から、家族から、本人から聴き取るようにしている。	○	家族、本人からの情報を得るためのシート(質問事項記載書など)を作成していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活上の変化・発言・動作などをケースに記入し、本人の状況を把握している。また声かけや見守りによりできることの把握に努めている。	○	本人言葉や表情を記入し、心理面での状況の把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の関わりの中での思いや意見を聴き反映させるよう努めている。職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	○	読書の好きな利用者には市の図書館へスタッフと一緒に行き、好きな本をかりて楽しんでいただき張り合いを持ってもらうように努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価し合い、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じてその都度見直しを行っている。	○	カンファレンスやミーティング時に話し合いを持ち柔軟に対応できるように対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に働きかけや、気づきを記入しているが変化の少ない利用者への記入が少なくケアにつなげていく記録には至っていない。	○	すべての利用者を注意深く観察し、具体的にケースに記入し、ケアにつなげていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて外出・通院の送迎を支援したり、医療機関と密に連絡を取り合うなどして、できるだけ要望に応じた生活を送ってもらえるよう努めている。	○	運営推進会議や家族会などで、地域や家族のニーズを伺い、要望に応じていける体制作りをしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺の公共施設やボランティアに協力してもらえるよう働きかけ、地域の資源を活用している。	○	市の生涯学習などに参加し、利用者の楽しみごとを増やしていけるよう検討中。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のお祭りや近隣の学校の文化祭など、利用者の状況や希望に応じて参加して楽しんでいる。また、本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用している。	○	個別に支援していけるようさらに努力をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力して利用できるよう支援している。	○	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加を検討し関係を強化していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診の状況、利用後の受診先や方法など家族と話し合い、希望に応じた医療機関にかかれるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医ではないが、協力医療機関の意思に相談することが多い。</p>	<p>○</p> <p>個々の認知度に応じた治療方針について、指示や助言をうけられるよう協力医療機関の医師だけでなく専門医をみつけ、関係づくりをしていくようにしたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医療機関の看護職員に協力してもらい、相談にのってもらっている。</p>	<p>○</p> <p>気軽に24時間相談できる体制にはなっていないため、いつでも相談できる関係づくりをしていくようにしたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は頻回に様子を見に行き、医療機関と情報を共有し、早期退院に努めている。また、遠方の家族へ入院状況を伝えるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>協力医療機関以外との関係が蜜でなく、情報の共有が無いため、今後は共有をはかり協力医療機関と同様な関係づくりをしていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者・家族の意向を伺い、協力医療機関へ伝えているが、その他の病院を利用している場合の医療機関との話し合いが行われていない。</p>	<p>○</p> <p>利用者や家族の意向を利用者個々の医療機関と段階的に話し合いを行っていくようにする。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療機関と蜜に連携をとり施設でどこまで対応できるかを見極め、利用者と家族と話し合いを行っている。急変時には対応してもらえるように医療機関に協力を依頼している。</p>	<p>○</p> <p>協力医療機関以外の医療機関とも連携を図っていくようにしたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え時には、利用者のこれまでの状況や情報を出来るだけ細かく伝えるようにしている。また、住み替え先との協働をできるような体制であることを伝えている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に様子をうかがうなど積極的に働きかけていくように検討したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけるような言葉や対応にならないように配慮している。	○ 個人名をつかった記録の書き方などを検討していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた質問形式にして答えやすいよう、選びやすいよう工夫している。	○ スタッフが決定している場面はないかをもう一度見直し、利用者が決定できる場面に切り替えていけるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や気持ちをみたり、聞いたりし、一人ひとりのペースに合わせて、押しつけることなく支援している。	○ 今までのケアなど施設側のスケジュールに合わせていないかを見直していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外部の理・美容院を利用している。化粧品や服と一緒に買いに出かけたり、おしゃれをすすめるよう心がけている。身だしなみ、服装選びの支援が必要なときは本人と話しながざり気なく支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は通常委託業者が行っている。盛り付け、片付けを利用者とともに、外食や利用者と一緒に調理する機会を作るなどの工夫はしているも利用者の力を発揮してもらう場面が少ない。	○ 給食が主となっている現状を見直し、食事作りの作業を施設で行っていけるよう現在検討中。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みを理解している。喫煙に関しては決められた場所で楽しんでいただくよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、さり気なく支援している。オムツ・リハビリパンツ等利用している方には随時見直しを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴を提供し、入浴希望を聞きながら柔軟な対応をしている。また、同性の介助が出来るようスタッフ間で調整している。	○	さらに毎日の入浴がさらに楽しめるような環境作りを行っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や生活リズムを崩さないよう配慮しつつ、適度な休息をすすめている。また夜間眠れない利用者にはあたたかい飲み物や甘いものを用意し、入眠しやすい環境を整えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の出来る事、得意分野で一人ひとりの力を活かし、経験や知識を発揮していただけるよう心がけている。また感謝の言葉を忘れないようにしている。	○	一部の利用者だけでなく、利用者一人ひとりの役割、楽しみ事、気晴らしの支援ができるようにしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設側で管理し、希望があれば検討し、本人に金銭管理をしてもらっている。	○	希望する利用者のみでなく、利用者の力を見極めて、金銭管理の支援をしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅近くの風景を見に行ったり、季節感を味わえるイベントを行っている。買い物は日常的に行い、積極的に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出や個人の思い入れのある場所への外出を実現できていない。	○	施設側の全体のイベントとしての外出だけでなく個人の思い入れのある場所への外出支援を現在検討中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話を使うことを支援している。公衆電話やコードレス電話を自室で使ってもらいなどし、ゆっくりと会話を楽めるよう支援している。	○	一部の人の利用だけでなく、一人ひとりの力に合わせた支援を考えていきたい。家族からも気軽に手紙や電話をかけてもらえるよう進めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めておらず、各家族の事情に応じた柔軟な配慮をしている。スタッフは訪問をあたたく迎えたり雰囲気を感じ、時には間を取り持つような働きかけをしている。	○	家族会、運営推進会議等で意見を聴き、改善点を見つけさらに工夫をしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を学習し、身体拘束のないケアをするということを共有認識している。	○	日常のケアを細かく振り返り、いつものケアの中に拘束にあたる部分はないかを見直していくようにしたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないことをスタッフ間で共有認識している。外に出る気配に目を配り、見守りをしている。一人ひとりの外出の様子を記入し、傾向をつかんで対応している。また近所の方にも理解、協力を依頼している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のニーズや生活時間に合わせたローテーションを組んでいる。安全や所在確認をフロアにいるスタッフが行っている。自室にいる利用者の様子はその人に合わせた時間や声かけ、見守りを行うようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、検討した上で危険のあるもの、その可能性のあるもののみ取り除くようにしている。	○	個別に解りやすく把握できるようにまとめていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険への気付きを報告し、速やかに検討し事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリ・ハットを今まで以上に活用し、事故防止に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、勉強会をしている。	○	スタッフの不安を話し合ったり、勉強会、訓練をくり返して、その場面になったときにあわてず行動がとれるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っている。年1回は地元の消防署の協力を得て、消火器の使い方などの訓練を行っている。	○	隣近所や地域住民の方々への協力の呼びかけが不十分なので、強化していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況の変化に応じ、起こり得るリスクを家族に伝えるとともに、リスクは高くなるが、本人の生活や気持ちを優先した暮らしを支援する大切さも伝え、理解してもらえよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し、変化や兆候に気付いたらすぐにスタッフ間で情報共有し、記録と申し送りを確実にし、医療機関へつなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の協力を得て、薬の目的、副作用について教えていただいている。状態に変化があった際は医師、薬剤師に記録を提供している。	○	家族にも服薬内容等を知らせるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況に注意し、朝牛乳を提供したり、食事、生活状況を見直し自然排便できるように取り組んでいる。	○	毎日の生活の中で自然と水分摂取や体を動かす機会が増えるよう工夫していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や力に応じた支援を行っている。	○	自ら口腔ケアを行えない利用者へ声かけし習慣となるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は大まかに把握しているが、一人ひとりに必要なカロリー、水分量を把握し、それにそった個別的な栄養、水分確保の支援までには至っていない。	○	一人ひとりに必要なカロリー、水分量を把握し、必要量は摂れるよう支援していきたい。栄養士と連携を図り、個別の食の支援を行えるよう協力を得たい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作りスタッフ間で学習している。また事業所や医療機関より流行している感染症の情報をもらっている。手洗い、うがいを励行している。	○	定期的な勉強会を継続して行っていくことで、周知徹底を図っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫を定期的に清掃・点検している。調理器具や水周りやふきん等の清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門前に花壇を置き、玄関までの通路にもプランターに花を植え、親近感を持ってもらえるようにしている。また、カギをかけずに、気軽に中に入ってもらえるように庭にベンチを配置している。	○	利用者・家族・外部の方に感想や意見をもらい、さらに工夫していききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、温度、臭い、明るさなどに気を配っている。共有の空間には花を飾る程度にし、華美になりすぎぬようにしている。	○	利用者・家族・外部の方に感想や意見をもらい、さらに工夫していききたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、庭先、玄関先にベンチを置き、一人または数人で気分転換を図れる様にしている。また、喫煙場所を確保しており、くつろげるスペースとなっている。	○	利用者・家族に感想や意見をもらい、さらに工夫していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス、小物類を使用して頂けるよう家族にお願いし、利用者一人ひとり居心地のよい居室になっている。	○	ベッド使用してもらっただけでなく、たたみを希望される方のニーズにも応えていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行っている。また、利用者の発汗、表情に注意し、温度調整をしている。エアコンは外気との温度差が大きくなるよう注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の使いやすさ、不便さを日常の動作を注意深く見守り、改善点があれば直すようにしている。また、水まわりが濡れていないかをチェックしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や不安にさせる環境、物品について検討し、取り除いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やテラスを利用し、花を植えたり、畑を確保したり、洗濯の干し場にしたりできるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭で生活していた時と同様に、庭や畑まで自由に行き来できるようにしたり、利用者が自由に気分転換をはかることができたり、趣味の園芸や畑を楽しめるよう玄関にはカギをかけないでいる。

また、施設内を利用者が自由に行き来し、他ユニットの利用者と自由に交流を持てるよう、各ユニットの出入り口のカギもかけず開放的にしている。それにともない、職員は常時利用者の行動パターンの把握、言動、表情の変化などに注意をはらい利用者の所在確認の徹底をはかっている。